

結成20周年
新たな大躍進
に向け出発!

月刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

2000.6.8 No. 5146

貨物会社の夏期手当超低額回答許すな! これ以上、労働者へのシワよせは許されない

J R 貨物 期末手当の推移

年度	1994	1995	1996	1997	1998	1999
夏期	2.50	2.45	2.40	2.30	2.15	1.75
年末	2.60	2.60	2.55	2.425	2.10	1.755
計	5.10	5.05	4.95	4.725	4.25	3.515
記事	経営赤字 2年目	7/1付21 開始		新7/1付21 開始		

動労総連合は、五月二三日JR貨物に「三カ月」の夏期手当要求を提出した。七期連続の経常赤字が続くなか、貨物会社はこの間ベ・ア、期末手当の超低額回答を続けている。赤字を理由にした労働者への犠牲の押しつけは限度に達している。夏期手当の要求獲得にむけて全力で闘おう。

年ごと手当削減が深まる

別表の「JR貨物の期末手当の推移」は貨物会社が赤字決算となった翌年からの期末手当の

支給額を表にしたものだが、年を経るごとに削減率が大きくなっていくのがわかる。貨物会社は九四年秋に「フレイト二一」計画を提案し、貨物七千人体制を打ち出したが、この時言われたのが、「収入にしろる人件費の割合が四〇％を越えている。これを三〇％台にしなければならぬ」ということであった。このもとに、ベ・ア、手当の削減が本格的に始まった。さらに二年で破産した「フレイト二一」に続いて「新フレイト二一」計画では、早期退職制度を本格的に導入し、五五才以上の労働者の運転を強要してきた。しかしながら、いっこうに経営は改善されずに赤字決算が七期連続となった原因には、景気の低迷による企業の生産・輸送量の減少とともに、度重なる自然災害による輸送網の寸断がある。

自然災害も賃金抑制に

昨年度だけでも、一〇月に東北線で大雨の路盤流出が発生、また十一月には室蘭本線でのトンネル内壁崩落事故により、収入減と代行輸送（コンテナをトラック輸送等に振り替えること）経費が発生し、これが貨物会社の赤字原因にもなっている。こうしたことを含めて赤字だからという理由で労働者の賃金抑制を行なっているのだ。貨物会社は今年度の経営計画で、収支計画のなかにはじめて災害対応費として、二〇億円を計上し、事故・災害の収入減にあてるとい

うことを明らかにした。しかし、三月末の北海道有珠山の火山活動により、四月だけでも約一六億円の収入減となるなど、この災害対応費を上回る事態に年度当初より入っている。貨物会社は「自然災害がなければ経営計画を達成し、手当もいくらかでも払える」などという一方で、「自然災害はついてまわるものになっている」などと、あたかも「災害」があるから手当も出せないと半ば責任放棄した言い方をしている。

夏期手当「三カ月」を支払え

貨物会社の今春闘のベ・アゼ口回答に続く夏期手当の超低額回答を許してはならない。忍耐にも限度というものがある。夏期手当の要求獲得にむけて全力で闘おう。交渉は、九月から始まり、組合の要求趣旨説明と会社側が考え方について明らかにする。この交渉を突破口にして全力で闘いにたちあがろう。

【貨物協議会】

知花昌一さん、サミット反対を訴え

—6・2沖繩と結ぶ千葉集會—

六月二日、船橋市内において百万人署名運動千葉県連絡会と同集會実行委員会の主催で「沖繩と結ぶ千葉集會」が開かれた。

満杯となった会場で沖繩の反戦地主・知花昌一さんが講演を行った。

知花さんは、サミットを前にした

沖繩の戒厳体制・翼賛状況に触れ、「今の流れの中で革新といわれた人々やこれまで頑張ってきた部分が、

安保を認め、基地を評価し、認めていくという方向にからめとられよう

としている」と喝破し、「沖繩の基地がアジアにとって大きな桎梏とな

っている。アジアの平和を脅かす存在としての反基地運動のうねりをサ

ミット反対運動のなかでつくりだしたい」と希望を語った。話の合間に

三線を弾きながら唄い、会場を沸かせた。沖繩サミット反対闘争に本土

からもともに立ちあがってほしい

